

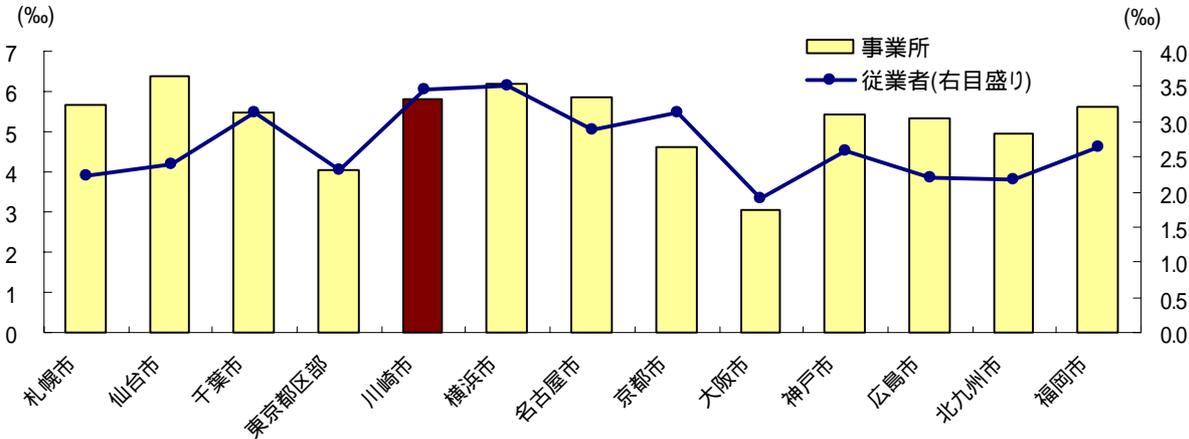
音楽関係従業者割合が高く大都市中第2位

川崎市では、音楽を中心とした芸術や市民文化の創造を通じ、活力ある地域社会の実現や新たな産業機会の創造など、幅広い効果による「音楽のまちづくり」を推進しているところです。

そこで、平成13年の全事業所に占める音楽個人教授所などの音楽関係事業所の割合を13大都市で比較すると、川崎市は、5.81パーミル(‰、例：5.81‰=0.581%)で大都市平均を上回り4番目となっています。

また、川崎市内で働く全従業者に占める音楽関係従業者の割合は、3.47パーミルで横浜市に次いで2番目となっています。

13大都市別音楽関係事業所及び従業者の割合(平成13年)

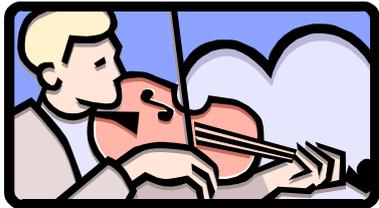
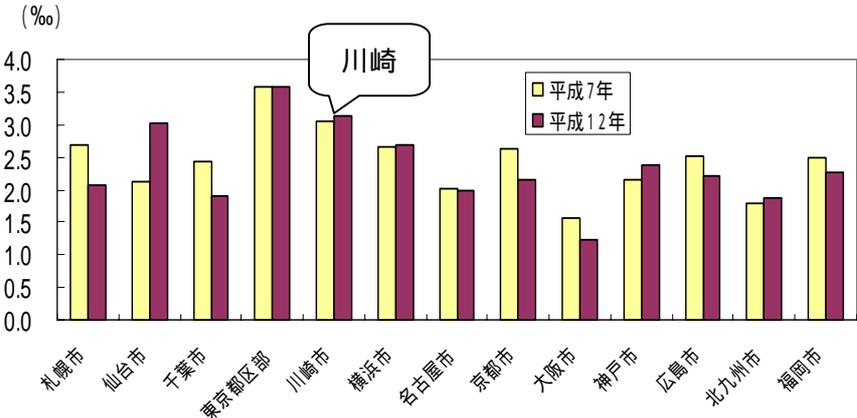


資料:事業所・企業統計調査

音楽家の割合が高く大都市中第2位

平成12年の川崎市民の職業別就業者数をみると、就業者に占める音楽家の割合は13大都市中、川崎市は、3.1パーミルで東京都区部に次いで2番目と高くなっています。

13大都市別15歳以上就業者に占める音楽家の割合(平成7年~12年)



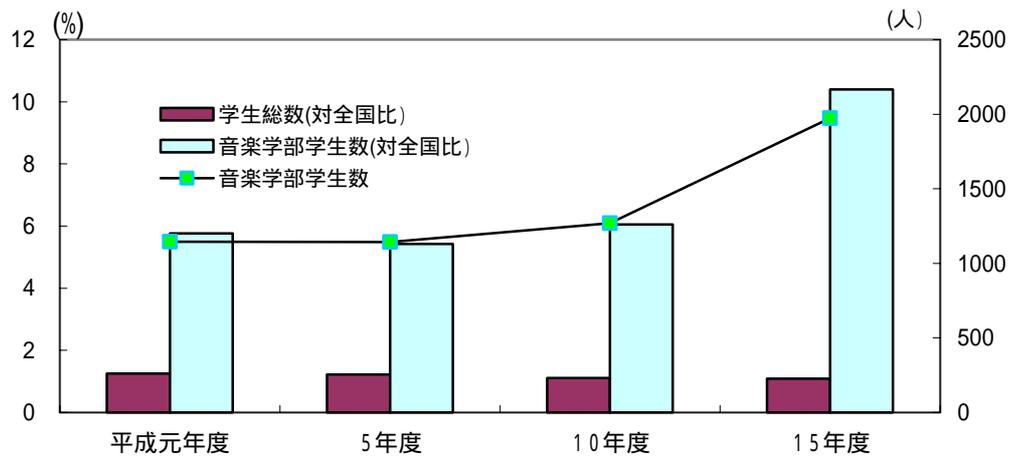
資料：国勢調査<抽出詳細集計>

川崎の魅力

音楽学部学生数は全国の10.4%

平成15年度の川崎市内在大学の学生数は、27,275人で全国の大学学生数の1.1%となっていますが、音楽学部学生数だけをみると、全国の10.4%を占め、1,973人となっています。

音楽学部学生数等（平成元年度～15年度）



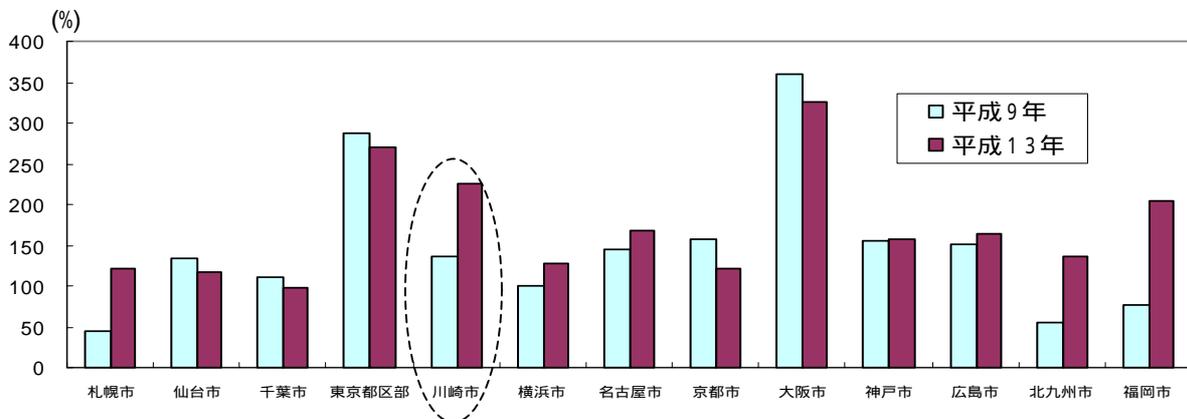
資料:学校基本調査

映画館の年間入場者数285万人で人口の約2.3倍

平成13年の映画館年間入場者数を対人口比で、13大都市比較をみると、川崎市は大阪市、東京都区部に次いで高く、人口の約2.3倍の285万人となっています。



13大都市別映画館年間入場者数対人口比（平成9年～13年）

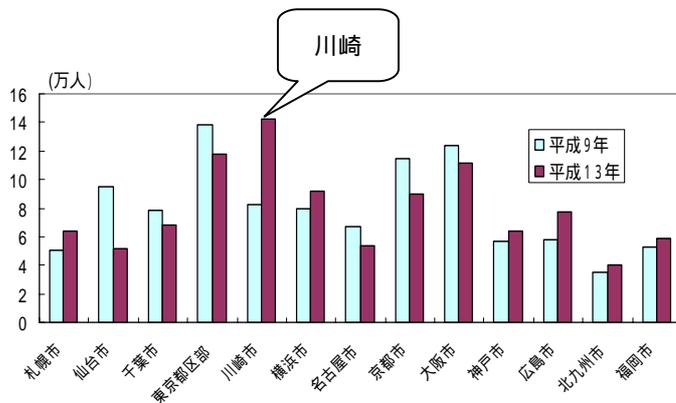


資料:特定サービス産業実態調査

1スクリーン当たり年間入場者数は大都市中第1位

平成13年の映画館1スクリーン当たり入場者数を13大都市で比較すると、川崎市は、大都市平均(7万9千人)を大きく上回る14万2千人で最も多くなっています。

13大都市別映画館1スクリーン当たり年間入場者数(平成9年~13年)



資料:特定サービス産業実態調査

市内には3つのシネコン
川崎駅近くで22スクリーン

川崎市内の映画館数は、1映画館1スクリーン時代の昭和41年末には45館ありました。しかし、近年は、1つの施設で10前後のスクリーンをもち、商業施設等とあわせたシネマコンプレックス(シネコン)という形態が主流となっています。このシネコンが、現在、川崎駅東口から徒歩5分以内に2つあり、あわせると22スクリーン、5,954席もあります。また、新百合ヶ丘駅近くにも9スクリーン、2,125席のシネコンがあります。

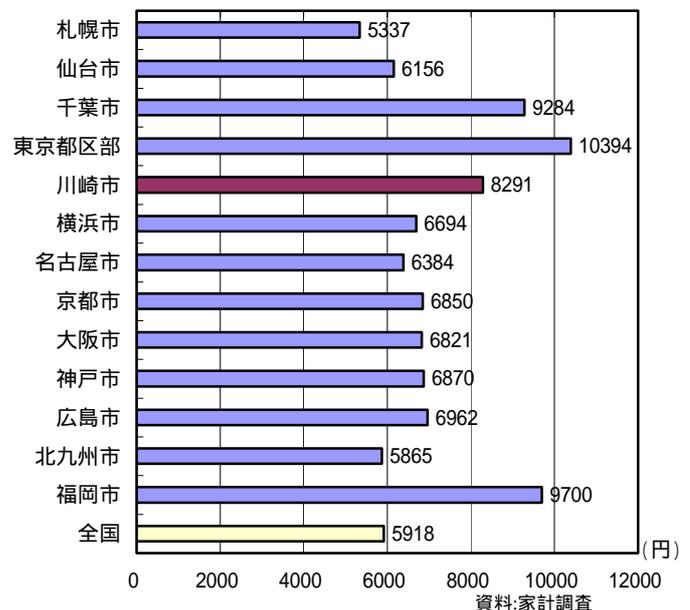
(昭和41年の平均料金219円)

映画館等入場料年間支出額は、1世帯当たり8,291円

平成13~15年平均の川崎市の1世帯(2人以上の世帯)当たり映画・演劇等入場料年間支出額は、8,291円となっています。

この支出額を全国平均(5,918円)と比較すると、川崎市の世帯では、約1.4倍の支出になります。また、13大都市中、年間8千円以上の支出となるのは、川崎市のほか、東京都区部が10,394円、福岡市が9,700円、千葉市が9,284円で、川崎市を含め4都市あります。

13大都市別1世帯当たり映画・演劇等入場料年間支出額(平成13~15年平均)



資料:家計調査